

# 資源評価調査事業－Ⅳ

## 海況

駒田文菜・岡田誠・宮本敦史

### 目的

本県沿岸の海況の調査研究を行い、漁場の形成にかかる海況情報を迅速に漁業関係者に提供することによって漁業の操業効率化を推進し、漁業経営の安定化に資することを目的とする。

### 方法

毎月1回、調査船「あさま」にて熊野灘沿岸定線観測の19測点及び伊勢湾浅海定線観測の16測点において海況調査を実施した。定地水温は、水産研究所のある志摩市浜島地先では原則平日の午前9時に、鈴鹿水産研究室のある鈴鹿市白子地先では午前10時に観測した。

### 結果及び考察

詳細は令和6年度漁況海況予報関係事業結果報告書(漁海況データ集)で報告するため、以下は概要を記す。

#### 1 黒潮の流路

黒潮は、2017年8月下旬に大蛇行流路となり、2024年度も継続した。

4月は、黒潮が八丈島南東沖で切離した冷水渦を迂回したためW字状の流路となり、中旬には一時非典型的A型に移行し、その後、八丈島東沖で冷水渦を迂回する暖流が独立し、典型的A型となった。5月は、下旬に熊野灘沖の30°N以南で蛇行部が切離した。6～8月は典型的なA型の大蛇行流路が継続し、8月には蛇行部が御前埼～石廊崎沖をS字状に北上した。9月は、中旬以降、青ヶ島や八丈島付近の伊豆諸島海域を北上した。10～12月は、概ね典型的なA型の大蛇行流路が継続した。1月は、中旬にかけて蛇行北上部の西偏が強まり、中旬に暖水が切離し、暖水渦となって熊野灘に停滞した。2月は、中旬にかけて蛇行部が29°N以南まで大きく南下していたが、中旬に切離し、一時的に蛇行の規模が32°N付近まで縮小した。3月は、中旬に切離した蛇行部が再び接合して、蛇行の規模が28°N付近まで拡大した後、再び蛇行部が切離した。また、中旬から中旬にかけて、蛇行北上部が熊野灘沖合に接近した。

#### 2 熊野灘の海況

熊野灘の水温傾向の評価においては、黒潮流型がN型時に黒潮の影響を直接的に受けやすい南部2測点(Stn.29、

30)を除いた17測点の平均水温の年間偏差を用いた。熊野灘沿岸における水温は、年度を通して高め基調で経過し、黒潮系暖水の影響が強い時にかなり高めとなった(図1)。

4～5月は、黒潮の蛇行北上部から断続的に熊野灘へ暖水が波及し、水温は平年よりやや高めで推移した。6月は暖水波及が弱まった影響により、水温は平年値に近づいたが、7月は猛暑と暖水波及の影響を受け、水温は平年より高めとなり、特に表面では顕著な高水温となった。8月も暖水波及が継続したため、高め基調で推移し、9月は残暑と暖水波及の影響によって、表面水温は顕著な高水温となった。10月以降、極端な高水温は観測されず、表面水温は徐々に降温して、12月には平年値に近づいたが、100m層では高水温傾向が強まった。1月には、熊野灘への暖水波及が強まり、切離した暖水が暖水渦がとなって熊野灘に停滞した影響で、水温は平年よりかなり高めとなり、特に100～200m層を中心に顕著な高水温となった。2月も、断続的に暖水が波及し、水温は高め基調で推移した。3月には中旬に熊野灘沖合への暖水波及が強まって、北部沖合では平年よりかなり高めとなったが、中旬以降はやや降温して、水温は平年より高めで推移した。

浜島の定地水温は、4月はやや高め～かなり高め、5月は平年並～やや高め、6月は平年並～高め、7月はやや高め～かなり高め、8月は高め～かなり高め、9月は高め～かなり高め、10月は高め～かなり高め、11月は平年並～高め、12月は平年並～やや高め、1月は高め～かなり高め、2月はやや高め～かなり高め、3月は高め～かなり高めで経過した。なお、8月は21観測日中8日間、9月は19観測日中7日間、10月は22観測日中13日間、3月は20観測日中8日間で同日の過去観測最高値を更新し、顕著な高水温となった。

#### 3 伊勢湾の海況

天候等の都合により8月の観測は9月3日に実施した。伊勢湾の水温は平年に比べて、4月は表層でかなり高め、10mで高め、底層でやや高め、5月は全層でやや高め、6月は表層及び10mでかなり高め、底層で高め、7月の表層は湾奥で低め、湾中央から湾口で平年並、10mでやや高め、底層で高め、8月は表層で高め、10m及び底層でかなり高め、9月は表層及び底層でかなり高め、

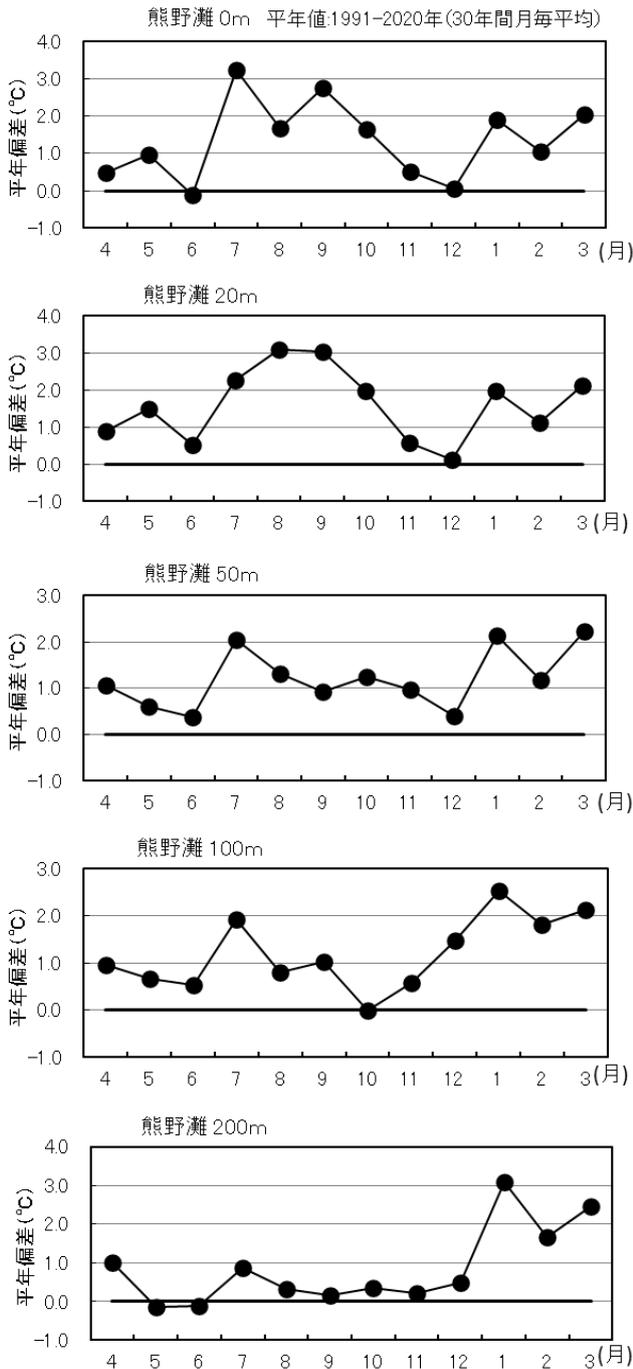


図1. 熊野灘沿岸定線観測における17測点平均水温の  
 年平均偏差 (2024年度)

10m で高め、10月 は全層で高め、11月 は表層及び10m  
 で高め、底層でかなり高め、12月 は全層でやや高め、1  
 月 は全層で平年並、2月 は表層及び10m で平年並、底  
 層では湾奥及び三重県沿岸でやや低め、湾央及び湾口  
 で平年並からやや高め、3月 は全層で平年並で経過した。

塩分は平年に比べて、4月 は表層でかなり低め、10m  
 でやや低め、底層で平年並、5月 は表層でやや低め、10m  
 で平年並、底層でやや低め、6月 は表層でかなり低め、  
 10m でやや高め、底層で平年並、7月 は表層でかなり低

め、10m 及び底層は平年並、8月 は表層でかなり低め、  
 10m で低め、底層で平年並、9月 は表層でやや低め、10m  
 及び底層で平年並、10月 は表層でかなり低め、10m 及  
 び底層でやや高め、11月 は表層及び10m でやや低め、  
 底層で平年並、12月 は表層及び底層で平年並、10m で  
 やや低め、1月 は全層で平年並、2月 は表層及び10m で  
 やや高め、底層は平年並、3月 は表層でやや高め、10m  
 及び底層は平年並で経過した。

DO (溶存酸素濃度) は平年に比べて、4月 は表層で  
 やや高め、10m 及び底層で平年並、5月、6月 はそれぞ  
 れ表層及び底層でやや低め、10m で平年並、7月 は表層  
 でかなり高め、10m で平年並、底層で高め、8月 は表層  
 で高め、10m でやや高め、底層では湾西側でやや高め、  
 湾口から湾中央東側でやや低め、9月 は表層で平年並、  
 10m で低め、底層でやや低め、10月 は表層で平年並、  
 10m でかなり低め、底層でやや低め、11月 は表層で平  
 年並、10m で低め、底層でかなり低め、12~3月 は全層  
 で平年並で経過した。

貧酸素水塊について、6月 19日に湾中央部から湾奥  
 にかけて 2mg/L 以下となる貧酸素水塊が観測され、12  
 月 10日の観測で解消が確認された。9月 3日までは湾  
 中央の深場を中心として発達していた貧酸素水塊は、9  
 月 19日には湾東側への高酸素水の進入とともに西側に  
 分布範囲が移動し、10月には湾奥や最深部で見られな  
 くなる一方、南西部では10m 層でも 1mg/L 未満となる  
 までに拡大した。11月 は湾口から中央付近まで高酸素  
 水の進入が明瞭であったが、北部の深場から南西部に  
 かけては貧酸素水塊が継続した。

白子の定地水温は、4月 は平年並~かなり高め、5月  
 はやや低め~やや高め、6月 はやや低め~高め、7月、  
 8月 はそれぞれ低め~高め、9月 は平年並~かなり高め、  
 10月 はやや高め~かなり高め、11月 はやや低め~かな  
 り高め、12月 はやや低め~高め、1月、2月 はそれぞれ  
 低め~やや高め、3月 はやや低め~かなり高めで経過し  
 た。なお、9~11月中旬は顕著な高水温で、それぞれ  
 19観測日中6日、22観測日中13日、13観測日中3日  
 で同日の過去最高を記録した。

#### 関連報文

三重県 (2025) : 令和 6年度漁況海況予報関係事業結果  
 報告書 (漁海況データ集)